

関連科目、教科書および補助教材	
関連科目	簿記概論Ⅰ・Ⅱ、原価計算論Ⅰ・Ⅱ、経営財務論Ⅰ・Ⅱ、財務会計論Ⅰ
教科書	「財務会計入門 第10版」桜井久勝・須田一幸(有斐閣)
補助教材等	プリント
学習上の留意点	
<p>財務会計論Ⅰに引き続き、企業の各種経営活動に関する会計基準と会計処理を学習することによって、企業全体の活動およびそれを反映する財務諸表体系に対する理解を深めていく。さらに、企業活動のグローバル展開によって生じた取引の会計処理も学習し、会計基準と会計実務を総合的に理解できることを目指している。最後、外部の利害関係者に対してディスカバーされた財務情報を利用し、企業経営を分析できることを図りたい。</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>本講義では、財務諸表の作成者の視点から学習を進め、企業活動に対する適切な会計処理をできることを図ります。しかし、財務諸表の利用者、例えば、投資家の視点から、企業によって公表された財務諸表を通じて、企業活動を分析することも有用な能力です。会計基準と会計処理を理解する上で、分析の視点から、財務会計の手続きを理解する必要があります。</p>	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス	・シラバスを通じて、学習の意義や授業の進め方、および評価方法を説明できる。	第1回で取り上げた内容の復習と第2回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
2	資金の管理と運用①	・余剰資金をどのように運用されているかを説明できる。	第2回で取り上げた内容の復習と第3回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
3	資金の管理と運用②	・現金および預金に関する取引を説明でき、会計処理ができる。	第3回で取り上げた内容の復習と第4回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
4	資金の管理と運用③	・有価証券の分類と評価基準を説明できる。	第4回で取り上げた内容の復習と第5回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
5	税金	・税効果会計を説明できる。 ・確定決算主義を説明できる。	第5回で取り上げた内容の復習と第6回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
6	配当①	・剰余金の配当について説明できる。 ・配当規則と債権者保護について説明できる。	第6回で取り上げた内容の復習と第7回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
7	配当②	・剰余金の処分について説明できる。	第7回で取り上げた内容の復習と第8回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
8	国際活動①	・企業活動の国際化に伴う会計問題を説明できる。	第8回で取り上げた内容の復習と第9回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
9	国際活動②	・為替リスクを説明でき、為替差損益の計算ができる。	第9回で取り上げた内容の復習と第10回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
10	国際活動③	・会計基準の国際統合の背景と進捗を説明できる。	第10回で取り上げた内容の復習と第11回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
11	財務諸表の作成と公開①	・財務諸表の体系と公開を説明できる。	第11回で取り上げた内容の復習と第12回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
12	財務諸表の作成と公開②	・損益計算書の内容を説明できる。 ・包括利益の意味と表示を説明できる。	第12回で取り上げた内容の復習と第13回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
13	財務諸表の作成と公開③	・貸借対照表の内容を説明できる。 ・四半期財務諸表の開示と内容を説明できる。	第13回で取り上げた内容の復習と第14回の講義内容の予習。口頭試問で確認する。
14	経営分析	・財務指標を計算でき、企業の経営状況を分析できる。	第14回まで取り上げた内容の復習。
期末試験			
15	答案返却・解答解説 全体の学習事項のまとめ 授業改善アンケートの実施	・試験問題の解説を通じて、間違った箇所を説明できる。 ・全体の学習事項のまとめを説明できる。	
総 学 習 時 間 数			45 時間
講 義			30 時間
自学自習			15 時間